

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<u>合計</u>	<u>30</u>

事業所番号	2370400992
法人名	有限会社 アット
事業所名	アットホームあいり
訪問調査日	平成20年5月16日
評価確定日	平成20年6月9日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月10日

【評価実施概要】

事業所番号	2370400992
法人名	有限会社 アット
事業所名	アットホームあいり
所在地	名古屋市西区玉池町255番地 (電話) 052-509-5115

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成20年5月16日	評価確定日	平成20年6月9日

【情報提供票より】(平成20年4月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年4月1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	20 人 常勤 13人, 非常勤 7人, 常勤換算 10人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	有(200,000 円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	550 円
	夕食	550 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年4月16日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	5名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	5名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.4 歳	最低	78 歳	最高	101 歳
協力医療機関名	名古屋市城北病院、高田内科医院、なかた歯科				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは新川の堤防沿いの住宅地にある。庭は三方に広がり、植木や四季の花が配置よく植えられ、バーベキューや餅つきなどの行事も行なわれ、皆が楽しむ場所になっている。『いどばた会』を通して地域との交流があり、介護や医療、健康の情報提供や相談を行なっている。ホームの行事に近隣の方を招いたり、入居者の独り歩きの連絡をしていただいたり、畑の野菜を頂くなど近隣とのコミュニケーションが図られている。入居者の早期退院を導き、ホームの生活に戻れたことで以前にも増して元気になられた方や庭の雑草取りに関心ある方に声かけしながら見守っている様子を実際に見て、その人らしい生活の支援がうかがえた。職員は常に感謝の気持ちを持ち、入居者に対しても職員同士でも「ありがとう」の言葉が常に聞かれ、できることに一生懸命取り組んでいる。素晴らしい入居者や職員に囲まれ、皆と一緒に日々我が家のように楽しく過ごしていることを管理者、職員は誇りに思い感謝している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 入居者は家庭的環境と地域住民との交流の下で、その人らしく楽しく過ごしており、地域の一員として生活できるよう日々取り組んでいる。理念の中にあえて地域との関わりを表現せず、今ある理念でこれまでのように地域との関わりを持つことに職員とも話し合った。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者から評価の意義や結果を話され、ミーティングでも話し合い、自己評価に取り組んだ。職員は、自己評価することでできていないことに気づき、反省することもでき自分でも改善に向けて取り組みたいと考えている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) ホームの活動報告や外部評価の報告がされている。『いどばた会』開催報告として、開催状況や健康、後期高齢者医療制度について話された。厚生労働省の資料を基に地域福祉についての話しもされ、また、地域でおきた不審火について説明があり、注意事項が報告された。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族から意見や不満、苦情を出しやすい雰囲気をつくり、意見が出た時は職員一人ひとりの問題としてミーティングで話し合い解決に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会や地域の行事に参加している。『いどばた会』を通して近隣との交流もある。ホームの行事にも地域の方に呼びかけ、交わりを楽しんでいる。畑で採れた野菜を頂いたり、入居者が独り歩きをしていると、安全を守るため連絡をして下さるなど連携がとれている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「女性は女性らしく、男性は男性らしく、人間は人間らしく」を理念とし、「誠実、謙虚、感謝、尊敬、情熱」の5つの言葉と入居者の尊厳を守り、地域の中で安心してその人らしく生き生きと暮らせるよう支援している。それ故に、理念の中にあえて地域との関わりを表現せず、今ある理念でこれまでのように地域の一員として関わりを持つことを職員と話し合い決めた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング時に管理者から理念について話をされ、職員同士も確認し合っている。人として生きる上には性別があり、その上で男性らしく女性らしく生活していただくよう心がけている。日頃、理美容に気を配り外出の時には服装、化粧などに配慮している。職員は感謝の気持ちを持ち入居者と関わっており、職員同士でも「ありがとう」の言葉が交わされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や地域の行事に参加したり、小学校の運動会や『いどばた会』を通して交流がある。近隣の方にはホームで行なうバーベキューの参加を呼びかけたり、餅つきの時には餅を配ったり、隣の畑で採れた野菜をよく頂いたりと関わりがある。入居者が独り歩きした時には、近所から連絡をいただくこともあり、安全が守られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者から評価の意義を話され職員は評価に取り組んだ。項目によっては受け取り方に色々あり、分からないことも多かったが自分の思っていることを書く上でケアができていたか、また、入居者はどう思っただろうかなど考えることができた。自分なりに改善点を見つけ、それに向けて取り組んでいきたいと考えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>ホームの活動報告や外部評価の報告をされている。今回は厚生労働省よりの「これからの地域福祉のあり方」について話され、地域福祉や支援については地域の方と一緒に考えていく必要性を資料に基づいて説明された。『いどばた会』の報告もあり、会の方向性や実施していることなどを説明した。会ではホームの取り組みや参加者からの意見も聞けるので、意義あるものと思い家族への参加も呼びかけている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当者へ運営推進会議への参加を呼びかけているが、多忙で出席されていない。名古屋市グループホーム連絡協議会の役員として活動しており、市と話し合うことがある。今後は些細なことでも話し合える機会を増やしていくよう努めたいと考えている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>来訪された折に普段の様子や健康状態を話している。何らかの変化や問題があった時は電話で連絡している。毎月「あいり便り」と金銭報告を送付しており、その折に入居者の生活ぶりを手紙に書いて写真も一緒に送っている。この手紙が家族に好評で楽しみにしておられる。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族が意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている。意見や不満、苦情が出た時は職員全員の問題としてミーティングで話し合い解決を図っている。家族会では思いやして欲しいことなど、普段聞けない意見をいただくことがある。家族から管理者に「職員のこともよく見てあげてね」と嬉しい言葉をいただくこともある。今後も運営推進会議や家族会を意見交換や交流を深める機会にしたいと考えている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>設立時からの職員が多い。辞める時は入居者にも報告している。辞めた後に挨拶の手紙が来ることもある。異動がある時は、入居者に迷惑がかからないように慣れた職員が支援している。新人職員には2週間の研修体制を設け、ベテランの職員が指導し入居者への不安を少なくするよう努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>採用時1カ月以内に管理者やベテラン職員から、スライドを使って知識を学んだり、実地で学んでいる。毎月、有志のグループホームで研修会を行っており、職員は時間をつくり出席している。外部研修にも多くのことを学ぶ機会が得られるよう参加を勧めている。他のグループホームからホームの見学に来ることがあり、その折にも意見が交わされ勉強になっている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>名古屋市グループホーム連絡協議会に役員として参加している。有志のグループホームとも毎月研修会を行い、テーマを決めて勉強したり、交流する場にもなっている。他のグループホームの良い点を取り入れ、サービスの向上に活かしていきたいと考えている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>安心し、納得してサービスを利用できるよう希望者には体験宿泊をしてもらっている。家族も一緒に泊まることもあり、入居者と食事をしたり、ホームでの生活を体験してから決めていただいている。日数は決めていないが一泊が多い。宿泊されない方にはあそびに来ていただくよう働きかけている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は常に謙虚、感謝、尊厳の気持ちを持って入居者に接している。草取りや食事の準備、お米運びを得意分野として力を発揮して下さり、職員との間に感謝する関係が築かれている。食事作りや後片付けの仕方など教えて下さることが多い。夜勤の時には「ごくろうさん、休める時に休みなさい」と言われたり、お茶を入れて労わって下さることがある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>思いや希望を伝える入居者にはそれに添えるよう努めているが、意思表示が難しく何をしたいのか思いを把握できない人には、行動や表情から察したり、家族の情報をもとにくみとるようにしている。希望された時にはなるべく早く対応し、その人らしさを大切に生活できるよう心がけている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>居室担当を設けグループで定期的に話し合いを実施している。必要があれば適宜、話し合いの場を持つこともある。入居時に本人、家族の希望を把握し介護計画に反映させているが、必要に応じての変更や職員間のアイデア、意見、感想を記録して全員参加の介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎日の変化がモニタリングと捉え、入居者の個別シートを作り、本人の写真を中央に貼り、食事、排泄、身体、精神状態などを記録している。毎月担当職員で話し合い、3カ月に1回全体会議で検討、見直しが実施されている。状況により本人、家族などの意見も参考に随時、追加変更を実施して、現状に即した計画が作成されている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人、家族の希望により受診の付き添い、個別の外出、買い物を実施している。訪問マッサージやボランティアの受け入れ、近くの同事業所のデイサービスセンターの利用、入退院時のお見舞いをできる限り多くするなど、柔軟な支援を行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関の往診が2週間に1度あり受診できる。歯科医の往診もあり、常に相談できる体制をとっている。電話の相談も可能である。家族との情報交換や報告は密に行っており、適切な医療の支援が実施されている。馴染みの医療機関や眼科、皮膚科など他の科への受診支援も行っている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時にホームでの医療面について、重度化や終末期の支援を説明している。本人、家族の現段階の意見や希望を聞いて同意をいただいている。家族や医療と連携をとり、相談、報告のもと全職員で方針の把握に努めている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>難聴傾向の多い入居者へブラバシーに配慮した言葉かけは難しいが、一人ひとりに合わせた言葉かけをしている。自尊心を傷つけないような言葉かけは、生活歴から学ぶことも多く共有している。個人情報の記録物はスタッフルームに保管しており、入居者や訪問者の目につかないように丁寧に管理している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりのペースを大切に過ごしていただいている。その日したいことがある時にはそれに添ってケアをしている。寝坊する人にも食事時には声かけはするが無理強いはいない。今はタバコを吸う人はいないが、酒や梅酒の好きな人が晩酌をしている。バーベキューや餅つきの日にはシャンパンやお屠蘇、ビールと飲み皆で楽しんでいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は食材選びから後片付けまでと考え、献立からの参加を試みている。持てる力を発揮できる献立を取り入れ、役割が可能な支援をしている。目で見え、味わって喜べる食事に重きをおいて個々にあった食事形態に配慮している。職員と一緒にできることへの感謝、手伝っていただけることへの感謝で時を過ごしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	生活習慣や希望を大切に、時間や曜日指定はしていない。菖蒲、柚子、入浴剤など使用したり気の合った方のお風呂を楽しんでいる。拒否のある方へはタイミングや職員の変更などで対応している。中止の日には手、足浴、清拭の代替入浴を実施している。銭湯やデイサービスセンターでの入浴も可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畳の部屋をほうきとちり取りを持って掃除をしている姿があった。キッチンでは調理、ホットプレートで卵焼き、ハサミでのり刻み、すしおけに炊き立てのご飯と調味料を合わせるなど協力して昼食の準備が進められていた。玄関の掃除、庭の草取りなど毎日、思い思いに参加している。家族や本人から趣味、生活歴を把握し、日常生活の中からその人らしい力を引き出し、役割や楽しみごととなるよう「生きる」ことへの支援に取り組んでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1、2階への往来は階段やエレベーターを自由に使用できる。1階の居間からは庭、玄関どこへでも出ることが可能になっており、気分転換、草花の世話など戸外に出ている。毎日の散歩は実施しているが時間は決めておらず、入居者おののの生活リズムで支援している。外食、買い物、季節ごとの外出を取り入れており楽しみごととなっている。同事業所のデイサービスセンターへ遊びに行ったり、近くの銭湯へ出かける日もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は入居者の行動パターンを幾通りも把握しており、開放感のある空間を提供している。鍵をかけないメリットを最大限に生かして人としての生活を大切に目配り、気働きで支援している。入居者のみならず近所の人々も自由に訪れており、状況を知らせてくれることもあり、周囲の理解が広がっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回は避難訓練を実施している。非常階段を使用する、車椅子対応の避難に要する時間を計る、目印になるよう体に付けるシールを準備するなど取り組んでいる。災害時の備蓄品は、水やパンの缶、レトルト食品、氷砂糖などを準備しており、地域の消防団へ支援を求めている。非常ベルの点検や消火器の使い方は消防署の指導を受けている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取の少ない人は個別に記録をしている。月1回の体重測定と「食べない、飲まない」ことのみにとらわれず生活全体を通じて食欲が出るように、健康状態や運動量、食事形態、生活習慣に配慮した飲食のタイミングなど職員間で検討をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に暖炉があり「冬は薪をくべ火の番を入居者が行う」と話された。どこからでも外が見える風通しの良いホーム内には季節の花が飾ってある。トイレや浴室にも窓が空間を広くしている。壁やエレベーター内には、折り紙や貼り絵などで季節を感じる心配りがあった。食事作りの音や匂いのある生活を過ごすことができる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの寝具や家具がそれぞれに持ち込まれている。仏壇や家族との思い出の写真、ホームでの写真、手作り作品が飾ってあり、落ち着けるよう工夫がされている。網掛けの手芸品がベッド上に置いてある居室もあった。線香などの火を使うものについては職員と一緒に生活習慣を支援している。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。